

5.交流と連携による地域づくり



第7回に～よんアイスクャンドルナイト(平成30年1月24日、札幌サンプラザ横ふれあい広場)

「スローライフ・イン・に～よん」が地域にもたらした事

仲間づくり、人脈づくりが街に幸せを呼び込む

スローライフ・イン・に～よん実行委員会 実行委員長 こいずみ あきのぶ 小泉 詔信

2004年からスタートしたスローライフ・イン・に～よんの活動が2018年で15年目を迎えました。活動を始めた目的は、北24条のイメージを変えたい、北24条から何かを発信したい、北区の行政の中心的存在であるこの地域をもっと優しく、美しくしたいという、この地域に住んでいる人、商売をしている人、来街者の方々共通の思いを実現することになりました。

事の発端は、2003年に当時の札幌市企画調整局から声が掛かり、北24条地区には数多くの飲食店、生鮮市場、八百屋さんが軒を連ねていることからスローフードに関する取り組みを北24条商店街を中心に企画してみませんか？という提案があったことでした。

この提案を当時の北区長でありました石黒氏に相談しましたところ、「せっかく北24条周辺という広いエリアで行うのであれば、食にこだわらず花等も取り入れてスローな生活をしようという意味で、『スローライフ』はどうでしょうか」という言葉をいただきました。感謝感激でした。そこでつけたネーミングが**食と花でまちづくり「スローライフ・イン・に～よん」**となった訳です。

早速企画書作りに取り掛かり、団体名、趣旨、目的、参加団体、役員構成、事務局体制を考え、承認をいただいて翌年3月19日札幌サンプラザにて第1回実行委員会を開催いたしました。

顧問には石黒進北区長になっていただき、北24条商店街、北区料飲店協会、北連合町内会、北第一町内会、北第二町内会、白楊小学校、北区役所、北区土木部、札幌市企画調整局、北海道大学農政関係者が出席してよいよ「スローライフ・イン・に～よん」の活動のスタートとなりました。

会にはフード部会、フラワー部会、イベント部会を設けて参加団体の方々が重複しながら部会活動を行うこととなりました。まず最初に手掛けた

のが北24条近辺を花いっぱいにする「フラワーロード」造りです。札幌市公園緑化協会からプランター100個を貸与していただき花苗2000株をフラワー部会員と町内会会員さんたちのお手伝い



をいただいて、歩道上に設置いたしましたら北24条近辺が見違えるようにきれいに、そして華やかになりました。

ところがせっかく設置したプランターの横に迷惑駐輪の自転車が置かれて花が見えなくなってしまいました。これではいけないということで駐輪禁止啓発の川柳を募集してプランターの横に掲示して呼び掛けを行うとともに、市営住宅幌北団地自治会の皆様のご理解とご協力を得て、幌北団地の駐車場の一角をスローライフ・イン・に～よんの活動期間中の臨時駐輪場として利用させていただき、そちらに駐輪していただく活動を行いました。その成果が実って市営住宅の建て替えの際に立派な駐輪場を造っていただき、現在は街路上の駐輪はほとんど皆無となりました。

また、スローライフ・イン・に～よんの活動を記念して、北海道芸術デザイン専門学校の生徒さんに、北24条の将来を象徴するような壁画の制作を依頼いたしました。応募作品の内の一点を採用させていただき横10メートル、高さ3メートル



「24の未来図」

◆「スローライフ・イン・に～よん」が地域にもたらした事

ルのスケールの大きな素晴らしい壁画が出来上がりました。

早速札幌サンプラザの1階ふれあい広場の階段横に掲示、度肝を抜くような見事な出来栄とその大きさに訪れたお客様は壁画の前でしばし、ぼうぜんと見入っておりました。

フード部会ではスローフード（地産地消）と食育（体験事業・食の安全）や食のリサイクル等についても検討し、農業体験として白楊小学校の児童に親子でじゃがいも、大根、とうきび等の野菜を作っていただきました。また、札幌特産の玉ねぎ、札幌黄を使ったオリジナルレシピの試食会を開催して野菜を多く取る啓発なども行いました。

イベント関連では7月末の二日間札幌サンプラザ前庭、1階ふれあい広場、隣接のに～よん広場を会場にした24条の夏祭りノースロード24フェスタを開催しています。地元飲食店の方々による飲食ブースや北区子ども会の子どもの向けの出店を始めとして、フェスタの企画運営のお手伝いをいただいている北大のYOSAKOIチーム「縁」の学生さんにYOSAKOIの演技を披露いただいたり、地元で活躍する音楽家や子どもたちによる演奏・ダンスで舞台を盛り上げていただいたりして、3000人以上のお客様に会場にいらしております。



そして冬もスローライフということでのに～よん広場にピラミッド型イルミネーションと200個のアイスキャンドルで幻想的な光の広場を演出し、道行く人に安らぎを感じてもらっておりますし、1月下旬には札幌サンプラザコンサートホールで地元で音楽活動をしている方々に出演いただき、その演奏を来場者の方々に無料で鑑賞いただく「24条の音楽祭」も開催し冬の日を楽しんでいただいております。

この活動を行うに当たって、各団体の方々と打ち合わせや事業を一緒に行うことにより、各団体間の意思の疎通が図られるとともに、協働作業の

重要性が認識され、街づくりの面白さや大切さが強く感じられるようになってきたように思います。そして、今までそれぞれが単独で行っていた行事を、他団体と共同で行うことにより、経費の節減や人員確保の問題の緩和、豊富なアイデアの共有、人脈の構築など、様々な利点が生まれてきたことが、今まで15年間も活動を続けて来られたことにつながっているのだと思います。

スローライフ・イン・に～よんの活動があったおかげで、北24条近辺が花でいっぱいになったし歩道の違法駐輪もなくなったね、夏には24条で盛大なお祭りも楽しめるね、アダプトプログラムの毎月の清掃活動で歩道はいつもきれいだね、

真冬のイルミネーションとアイスキャンドル

は見応えがあるね、1月のに～よん音楽祭は美しい音楽をいつも楽しめるね、

と言われてるように思いますがいかがでしょうか？

春は5月から始まり、翌年の2月まで前述の活動がありますが、花いっぱい活動は町内会様のご理解もあり活動の輪がどんどん広がってきているように思われます。15年が過ぎ参加者も高齢化しておりますが、地域の美化、活性化を進めたいという気持ちから進んで参加していただいておりますし、最近では若い北大の学生さんからも進んで行事への参画を申し出ていただいております、頼もしい限りです。

今後はこの地域にあります学校の生徒さんや、北24条エリアで活躍している若い方の団体「フロム24」の方々の斬新な考え方を大いに取り込んで、高齢者も若い方も楽しめる住みよい街づくりを目指して活動を続けていきたいものと考えております。

○お問い合わせ

スローライフ・イン・に～よん実行委員会

北区北23条西4丁目2-17 森谷ビル2F

TEL. 011-707-3027

(北24条商店街振興組合内)

こんにちは！「篠路まちづくりテラス和氣藍々」です

篠路まちづくりテラス和氣藍々 いしもと よりこ 石本 依子

いつも誰かに会える、どんな人にも誰にでも役割がある、やりたいことがかなえられる場所。地域のみんなの居場所になりたい。「篠路まちづくりテラス和氣藍々」はそんな思いがあふれるコミュニティカフェです。手打ちうどんを始めとしたランチやケーキなど、手作りのメニューを用意しています。



■和氣藍々誕生物語

4年前のある日、篠路コミュニティセンター（以下「コミセン」という。）で開催している「きずなサロン」の中で、鉄道高架や区画整理、道路の拡幅などの公共事業によって、篠路のまちがこれから大きく変わっていくということが話題になりました。

「10年後にはどんなまちになっているのだろう？」「知らないうちに見慣れたまちが変わっていくのはなんだかさみしい気がするね」「自分たちの思いを少しでも反映させたまちにしていけるかな」「自分たちの思いって一体どんなことだろう」

そんな会話をきっかけに、コミセンの利用者の方たちとコミセンスタッフが中心となり、まちについてのみんなの思いを聞いてみようということになりました。どんなまちに住みたいか、どんなものがあつたらいいか、コミセンの文化祭や商店街のお祭りでアンケートを取るといった活動を始めました。

集めたアンケートを集約すると、①みんなが気軽に集まれる場所が欲しい②ごはんが食べられるお店が欲しい③歴史を伝える拠点が必要 という3つの声が多くありました。まちに必要なものは自分たちで作っていこう、それが立ち上げの動機になりました。

■出番と役割のある居場所

まちの未来を考える活動を進める中で、まちにはいろいろな人がいることを知ることとなりました。時間も元気もあって活躍の場を求めている高齢者、働きたくても働くことができない若者、子育てに悩む母親、さまざまな出会いがありました。どんな人でも誰にでも出番のある場所、つながれる場所、そんな居場所がまちには必要だと思うようになりました。

中心となる事業に飲食を考え、地元の製粉工場にうどん作りを習いに行きました。うどんを手作りするには、粉をこねる、生地をまとめる、踏む、伸ばす、切るといった工程があります。この工程の中で、人はそれぞれ得意分野があるということに気づきました。こねるのは得意だけれども踏むのは苦手な人、伸ばすのは苦手だけれども切るのは得意な人。うどん作りは一人一人の得意な力を発揮して協力できる作業で、どんな人にも役割が持てる仕事になると確信して、事業の柱に据えています。



■地域の応援をいただいて

このような経緯を経て、いよいよ店づくりが始まりました。コミセンの指定管理者であるワーカーズコープのスタッフたちが、コミセン以外にも地域の居場所をつくろうと動き始めました。思いはあっても一体どんなことができるのか、不安を抱えながら試行錯誤しているときに大きな力になってくれたのが、この思いに賛同してくれた地域の方々です。立ち上げのために必要な資金を出資してくれた方、備品を提供してくれた方、花壇を作ってくれた方、いろいろな協力をいただきました。中でも地域の高齢者から成る篠路チョボラ会には、食器洗いや接客、草刈りや花壇整備、雪かきなどのボランティアスタッフとして、毎日の運営を大きく支えていただいています。

■つながる活動

和氣藍々では、現在さまざまな活動を行っています。北区役所や保健センター、篠路まちづくりセンター、介護予防センターなどの協力をいただいて、定期的に開催している三世代交流「あいあいサロン」、認知症介護困りごと相談「語り合いふわふわカフェ」。みんなで集まっておしゃべりを楽しみながら、保健師さんや、介護の専門家に気軽に相談することができます。

地域の有志による「おうち食堂」は、大人 300 円、子ども 100 円で食事を提供する地域食堂です。

メニュー決め、買い出し、調理から後片付けまで、すべてボランティアスタッフの方が運営しています。食事の支度



を楽しそうに手伝う子ども、ボードゲームを楽しむ親子、食事と会話を楽しみながら交流できる場です。

毎月第2土曜日は「夜藍々」と題して、居酒屋の雰囲気での夜の営業を行っています。ひとりで来ても仲間と来ても、おいしいお料理とお酒を飲んでいるうちに初めて会った人と仲良くなれる、そんな雰囲気の居酒屋です。最近では趣味の活動の発表の場として、落語やバンド演奏など、いろい

ろな人たちが集まってくるようになりました。

手作り作家さんたちによるワークショップやマルシェ、アナログなゲームを楽しむボードゲームの会、本好きの仲間が集まる読書会などは、「ここでこんなことをやってみたい」という企画が持ち込まれ実現していったものです。ここはみんなのやりたいことがかなう場所なのです。

■まちづくりを考える

和氣藍々は「わきあいあい篠路まちづくりの会」の活動拠点でもあります。自分たちが住み続けたいのはどんなまちなのか、未来の人たちに何を残していくか、市の区画整理事業をきっかけに地域のみんなで話し合いを行っています。「まちあそびカフェ」と題して、地元で長く酒屋を営んでいた

女性の話の聞いたり、篠路駅前の倉庫群の歴史を学んだり、篠路の入植にゆかりのある富山と徳島



の食や文化を知る集いにも、大勢の地域の方が集まりました。2月に篠路駅東口で開催する「しろ紙袋ランタンまつり」もみんなで力を合わせて取り組みます。

■これからのこと

どんな人にも誰にでも役割のある場所として、いろいろな取り組みを行ってきました。今年度からは札幌市障がい者協働事業所となり、障がいのある方々と共に働いています。

スタートから間もなく2年になろうとしています。こんな場所があったらいいね、という声から始まった和氣藍々。篠路のまちになくはならない場所になっていけるよう、地域の仲間とともにまちを元気にしていく活動を行っていきます。みなさんぜひ篠路のまちに遊びにいらしてください。

○お問い合わせ

ワーカーズコープ

篠路まちづくりテラス和氣藍々

北区篠路4条9丁目15-10

TEL. 011-788-3146

5.交流と連携による地域づくり

～北区&北海道大学大学院保健科学研究院～

健康なまちづくりに関する地域連携協定の締結

北区保健福祉部 保健福祉課／健康・子ども課

皆さんは「健康なまち」と聞いて、どのようなまちをイメージされるでしょうか。北区役所は、北区にお住まいのあらゆる年代の方々が、健康を維持・増進しながら、いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けられるような、そんな「健康なまち」を目指して、様々な取り組みを進めてまいりました。

しかし、少子高齢化の進行に伴い、要介護認定者数の増加、生活習慣病の重症化、児童虐待予防の強化など、地域の保健福祉に関する課題は増え続け、ますます効果的な取り組みが必要な状況にあります。

そこで北区役所は、北区に所在する北海道大学大学院保健科学研究院（以下「北大保健科学研究院」という。）と連携し、共に地域の課題解決に取り組むことにいたしました。世界の保健科学・健康科学をリードする北大保健科学研究院が持つ専門知識をフル活用し、北区がより一層健康なまちになるよう、一緒に取り組みを進めることにしたのでした。

【新たな連携の始まり】

北大保健科学研究院は北区にありますので、今までも連携して活動してきました。例えば、北区で開催している健康に関するイベントには、北大の学生さんたちの協力を得て開催・継続しているものが複数あるのです。

そんな中、2017年度に、北区役所の保健師が介護予防教室のプログラムをもっと効果的なものにしたと考え、参加者のニーズを調査したいと考えました。そこで、介護予防活動における社会参加について研究を進めたいと考えていた北大保健科学院の院生と共に、共同研究を行うことといたしました。一緒に教室参加者の体力測定やアンケート調査を行い、分析を進めたところ、介護予防

教室参加者の教室ごとの特徴が明らかになり、その特徴に合わせた介護予防プログラムに改定することができました。

この共同研究は介護予防の分野でしたが、共同研究の実施を通して、両者ともに、さらに幅広い分野においても、共同研究という手法を活用できるという実感を持つことができました。北区民の皆さまの健康増進に向けて取り組みを進めるにあたり、両者の力を合わせることはとても効果的だと考えたのです。まさに、1+1が無敵大になるような、広がり期待できると感じました。



体力測定の様子

【健康なまちづくりに関する地域連携協定の内容】

この協定の大きな目的は、北区役所と北大保健科学研究院が連携し、それぞれが有する資源や機能を効果的に活用することで、北区における健康なまちづくりを推進することです。具体的には、次の2つになります。

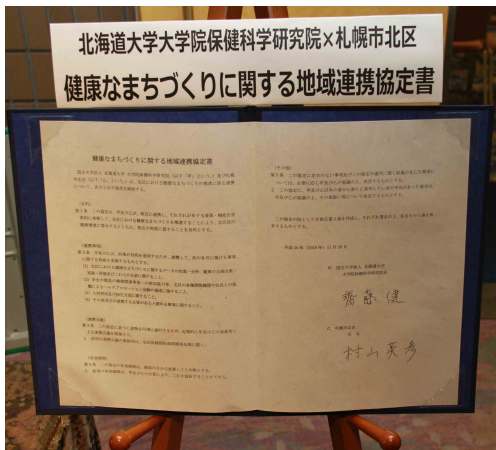
- ① 北区の健康なまちづくりに関するデータを収集・分析し、新たな取り組みを企画・実施・評価すること
- ② 北区民の皆さまと協働し、健康づくり活動を行うこと

この2つの活動を軸に、取り組みを進めていく予定です。

◆健康なまちづくりに関する地域連携協定の締結

【締結式】

健康なまちづくりに関する地域連携協定の締結式は、2018年11月20日、北大保健科学研究院で行われました。北大保健科学研究院の齋藤健研究院長と、北区の村山英彦区長が協定書に署名して協定を締結し、北区健康なまちづくりキャラクターである「ぼっぴい」も駆け付けて、記念撮影を行いました。



【締結記念講演会・健康イベント】

健康なまちづくりに関する地域連携協定の締結を記念して、2018年11月21日には、札幌サンプラザで締結記念講演会と健康イベントを開催しました。締結記念講演会では、北大保健科学研究院の齋藤研究院長から基調講演をしていただいたほか、北区役所と北大保健科学研究院の共同研究についての報告や、今後、両者が一緒に進めていく研究内容についても説明がありました。質疑応答では、会場から活発に質問を頂戴し、北区民の皆さまの意識の高さを実感したところです。



齋藤研究院長の基調講演

また、同時開催しておりました健康イベントにも、多くの方々にご来場いただき、特に血管年齢測定や脳年齢測定ブースには、測定を希望される方が多く並び、大盛況となりました。



健康イベントの様子

【今後の取り組み】

健康なまちづくりに関する地域連携協定が締結されましたので、北区の保健福祉に関する課題の解決に向け、北区と北大保健科学研究院が一緒に取り組みを進めていく土壌ができました。2017年度に始めた介護予防教室の参加者に対する調査は、今後も継続して行い、参加者の特徴に合わせた介護予防プログラムの開発と、効果の検証を行っていきます。また、一人暮らしの高齢者の孤立を防ぐため、ICT（情報通信技術）を活用したプログラムの開発も始まっているところです。

今後も、様々な分野において、両者による取り組みを進めてまいります。北区民の皆さまにも、随時進捗状況をお伝えしていく予定です。北区がますます健康なまちになっていくプロセスを、温かく、時に厳しく、見守っていただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

○お問い合わせ

北区保健福祉部保健福祉課
TEL. 011-757-2465
北区保健福祉部健康・子ども課
TEL. 011-757-1181

コラム⑧ 地域と連携した冬みち対策の取り組み

～砂入りペットボトル作製～

北区土木部維持管理課

札幌市では、市民の雪対策への関心や要望が高い一方で、除雪従事者の不足や、除雪機械・ダンプトラックの確保の困難化など、除排雪を取り巻く環境は一層厳しさを増しており、さらには、少子高齢化の進行により除雪に係る地域の負担感が増加するなど、地域の除雪において新たな課題が生じています。これらの課題の解決に向けては、行政の力だけでは限界があるため、地域力を生かした様々な冬みち対策を進めています。

その一環として行っている「砂入りペットボトル作製」は、地域と北区土木部が協働で取り組む冬期間の凍結路面の転倒防止対策として、平成23年度から実施しているものです。

この取り組みでは、本格的な降雪を迎える前の9月～11月にかけて、町内会、高齢者団体や高校生、小学生まで多くの方にご協力いただき、500mlのペットボトルに砂を詰める作業を行っており、平成30年度は20団体で約9千本を作製しました。作製した「砂入りペットボトル」は、区役所やまちづくりセンター、地区センターなどに冬期間設置され、地域の方々に利用していただいています。

「砂入りペットボトル」は、砂箱に入っている砂袋に比べると持ち歩きしやすいので、近くに砂箱が無いところでの安全確保など、ツルツル路面对策として非常に有効な取り組みとなっています。

札幌市では、将来のまちづくりを担う子どもたちが札幌の雪対策や冬の暮らしに関心を持ち、除雪に対する意識が浸透するよう、小学生を対象とした雪体験授業も近年実施していますが、その中でも体験学習メニューとして「砂入りペットボトル作製」を取り入れています。授業の一環として「砂入りペットボトル」を実際に作製し、通学路等の歩道上で滑りやすくなっている箇所を見つけて「砂入りペットボトル」で砂をまいてみることによって、砂まき活動への参加意識を身に付けたり、砂まきの効果を実感してもらうことを期待して取り組んでいます。

このほかにも北区では、砂箱の寄贈、春の清掃を含めた民間協力による一年を通じた凍結路面对策も推進しているところであり、今後についても、このような取り組みを通じて、学校や企業を含めた地域と行政が連携し、より良い冬期道路環境を共に目指していきたいと考えています。



区内の小学校で地域住民の方も参加して行われた砂入りペットボトル作製の様子

【お問い合わせ】 北区土木部維持管理課 TEL. 011-771-4211